



## 平成23年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成22年8月12日

上場会社名 株式会社シード 上場取引所 JQ  
 コード番号 7743 URL <http://www.seed.co.jp>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 浦壁 昌広 (TEL) 03(3813)1111  
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理本部長 (氏名) 鎌田 清 配当支払開始予定日 —  
 四半期報告書提出予定日 平成22年8月13日  
 四半期決算補足説明資料作成の有無：無  
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成23年3月期第1四半期の連結業績（平成22年4月1日～平成22年6月30日）

#### (1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
23年3月期第1四半期	2,838	6.4	△17	—	△45	—	28	65.5
22年3月期第1四半期	2,667	14.7	56	—	36	—	17	—

	1株当たり 四半期純利益		潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益	
	円	銭	円	銭
23年3月期第1四半期	3	71	—	—
22年3月期第1四半期	2	24	—	—

#### (2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率		1株当たり純資産	
	百万円		百万円		%		円	銭
23年3月期第1四半期	15,576		5,435		34.9		705	74
22年3月期	15,480		5,444		35.2		706	91

(参考) 自己資本 23年3月期第1四半期 5,435百万円 22年3月期 5,444百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金							
	第1四半期末		第2四半期末		第3四半期末	期末	合計	
	円	銭	円	銭	円	銭	円	銭
22年3月期	—	—	0	00	—	—	5	00
23年3月期	—	—						
23年3月期(予想)			0	00	—	—	5	00

(注) 当四半期における配当予想の修正有無：無

### 3. 平成23年3月期の連結業績予想（平成22年4月1日～平成23年3月31日）

(%表示は、通期は対前期、第2四半期（累計）は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円	銭
第2四半期（累計）	5,882	7.4	80	△3.8	35	△57.5	45	△11.8	5	84
通期	12,000	7.8	220	66.1	130	74.9	110	△9.6	14	28

(注) 当四半期における業績予想の修正有無：無

4. その他（詳細は、[添付資料] P. 3「その他」をご覧ください。）

(1) 当四半期中における重要な子会社の異動：無

新規 社（社名）、除外 社（社名）

（注）当四半期会計期間における連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動の有無となります。

(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の適用：有

（注）簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用の有無となります。

(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

① 会計基準等の改正に伴う変更：有

② ①以外の変更：無

（注）「四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更」に記載される四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の有無となります。

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）

23年3月期1Q	9,112,000株	22年3月期	9,112,000株
----------	------------	--------	------------

② 期末自己株式数

23年3月期1Q	1,409,687株	22年3月期	1,409,607株
----------	------------	--------	------------

③ 期中平均株式数（四半期累計）

23年3月期1Q	7,702,367株	22年3月期1Q	7,702,432株
----------	------------	----------	------------

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続を実施しております。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載した予想数値は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確定な要素を含んでおります。実際の業績等は、業況の変化等により上記予想数値と異なる可能性があることをご承知おき下さい。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報 .....	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報 .....	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報 .....	2
(3) 連結業績予想に関する定性的情報 .....	3
2. その他の情報 .....	3
(1) 重要な子会社の異動の概要 .....	3
(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要 .....	3
(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要 .....	3
(4) 継続企業の前提に関する重要事象等の概要 .....	3
3. 四半期連結財務諸表 .....	4
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	4
(2) 四半期連結損益計算書 .....	6
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書 .....	7
(4) 継続企業の前提に関する注記 .....	8
(5) セグメント情報 .....	8
(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記 .....	9

## 1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報

### (1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第1四半期連結会計期間におけるわが国経済は、政府の経済対策効果等により景気の回復基調が見られ始めましたものの、国際金融情勢の影響による株安や円相場の急激な高騰等、依然として先行き不透明な状況が続いております。

コンタクトレンズや眼鏡業界におきましても、小売市場における販売競争激化に伴い販売価格の低下が長期化する等、厳しい状況が続いております。

このような状況の中、当社グループといたしましては、平成23年3月期を『事業基盤強化と次の成長へのチャレンジ』の基点の年とし、収益体質の強化のため、遠近両用レンズやトーリック等の新商品投入による商品スペックの多様化や子会社小売店舗の販売力アップに取り組んでおります。

この結果、当第1四半期連結会計期間の売上高は2,838百万円（前年同期比6.4%増）となりましたものの、主力商品のひとつ「シードファイン」シリーズ（1日使い捨て・2週間交換・1ヶ月）のUVカット化による新旧商品入れ換えコストが4、5月に一過的に集中したため粗利益を圧迫したことや、取扱施設の増加に伴う広告宣伝費や子会社の新宿タワービジョンの新装開店初期費用が膨らんだため、営業損失17百万円（前年同期営業利益56百万円）、経常損失45百万円（前年同期経常利益36百万円）となりました。四半期純利益につきましては、固定資産売却益や税効果の影響により28百万円（前年同期比65.5%増）となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

#### （コンタクトレンズ・ケア用品）

コンタクトレンズ・ケア用品については、積極的な営業活動により「シードワンデーピュア」やケア用品の「ピュアティモイスト」等が伸長しまして、売上高は2,327百万円（前年同期比11.0%増）となりました。しかしながら、前述にもありますとおり、「シードファイン」シリーズUVカット化に伴う商品入れ換えによる粗利益圧迫に加えて、新宿タワービジョンの新装開店費用や薬物放出制御（DDS）機能を備えたコンタクトレンズの開発費用等、収益体質強化のための先行費用を投下していることにより、営業利益は77百万円（前年同期比45.9%減）となりました。

#### （眼鏡）

眼鏡につきましては、小売市場における販売価格低下の長期化等が影響し、売上高は340百万円（前年同期比10.6%減）となりました。しかしながら、前期下期に着手しました組織改編をはじめとする事業利益確保のための諸施策効果が、低価格販売に伴う粗利益減少を克服し、営業利益12百万円（前年同期比47.3%増）となりました。

#### （その他）

その他につきましては、眼内レンズ市場の販売競争激化や子会社の携帯電話部門の取扱メーカー追加による効果も一巡したこと等により、売上高は171百万円（前年同期比9.4%減）、営業損失は30百万円（前年同期営業損失15百万円）となりました。

### (2) 連結財政状態に関する定性的情報

#### ①資産、負債及び純資産の状況

当第1四半期連結会計期間末における資産の残高は、15,576百万円となり、前連結会計年度末から95百万円の増加となりました。主な要因として、現金及び預金の増加499百万円（351百万円から850百万円）や有形固定資産の減価償却に伴う減少198百万円（7,648百万円から7,449百万円）によるものであります。

負債につきましては、10,140百万円となり、104百万円の増加となりました。主な要因として、支払手形及び買掛金の増加98百万円（577百万円から675百万円）が挙げられます。

純資産につきましては、5,435百万円と9百万円の減少となりました。主な要因として、配当金の支払い38百万円が挙げられます。

#### ②キャッシュ・フローの状況

当第1四半期連結会計期間における現金及び現金同等物（以下、「資金」という。）は、850百万円となりました。各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は以下のとおりであります。

##### （営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果得られた資金は、519百万円となりました。これは主に、売上債権やたな卸資産の減少によるものであります。

##### （投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果得られた資金は、22百万円となりました。これは主に、土地の売却によるものであります。

##### （財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果使用した資金は、42百万円であります。これは主に、借入金の返済や配当金の支払いによるものであります。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

平成23年3月期の業績予想につきましては、平成22年5月17日に公表いたしました連結業績予想から変更はありません。

2. その他の情報

(1) 重要な子会社の異動の概要

該当事項はありません。

(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要

①一般債権の貸倒見積高については、当第1四半期連結会計期間末の貸倒実績率等が前連結会計年度末に算定したものと著しい変化がないと認められるため、前連結会計年度末の貸倒実績率等を使用して貸倒見積高を算定しております。

②たな卸資産の評価方法については、収益性の低下が明らかなものについてのみ正味売却価額を見積り、簿価切下げを行う方法によっております。

③法人税等並びに繰延税金資産及び繰延税金負債の算定方法については、法人税等の算出については、加味する加減算項目や税額控除項目を重要なものに限定する方法によっております。また、繰延税金資産の回収可能性の判断については、前連結会計年度末以降に経営環境や一時差異等の発生状況に著しい変化が認められた場合には、前連結会計年度において使用した業績予測やタックス・プランニングに当該影響を加味して算出したものを利用する方法によっております。

④固定資産の減価償却費の算定方法については、定率法を採用している資産については、連結会計年度に係る減価償却費の額を期間按分して算定しております。

(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要

当第1四半期連結会計期間より、「資産除去債務に関する会計基準」（企業会計基準第18号 平成20年3月31日）及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第21号 平成20年3月31日）を適用しております。これにより、損益へ与える影響はありません。

当社及び当社グループは、事務所や工場等の不動産賃借契約に基づく、退去時の原状回復に係る債務等を有しておりますが、当該債務に関する賃借資産の使用期間が明確ではなく、かつ現時点において将来退去する予定もないこと等から、資産除去債務を合理的に見積もることが困難であるため、当該債務に見合う資産除去債務を計上しておりません。

(4) 継続企業の前提に関する重要事象等の概要

該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表  
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	当第1四半期連結会計期間末 (平成22年6月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	850,328	351,069
受取手形及び売掛金	1,857,411	1,984,729
商品及び製品	1,766,000	1,927,179
仕掛品	726,900	696,299
原材料及び貯蔵品	115,040	120,918
未収入金	212,663	263,319
その他	598,271	519,726
貸倒引当金	△112,919	△131,423
流動資産合計	6,013,698	5,731,817
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	2,109,825	2,023,494
機械装置及び運搬具(純額)	2,188,089	2,313,457
土地	2,765,992	2,769,208
リース資産(純額)	210,365	234,047
建設仮勘定	23,613	149,813
その他(純額)	151,312	157,991
有形固定資産合計	7,449,198	7,648,013
無形固定資産	91,988	91,029
投資その他の資産	2,021,642	2,010,020
固定資産合計	9,562,830	9,749,063
資産合計	15,576,529	15,480,880
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	675,186	577,116
短期借入金	6,196,021	4,573,525
リース債務	127,895	126,002
未払法人税等	11,199	38,865
賞与引当金	132,830	69,130
その他	584,444	602,956
流動負債合計	7,727,576	5,987,596
固定負債		
長期借入金	1,417,656	3,018,058
リース債務	84,187	112,059
退職給付引当金	814,909	813,057
役員退職慰労引当金	33,401	42,178
その他	63,000	63,000
固定負債合計	2,413,153	4,048,352
負債合計	10,140,729	10,035,949

(単位：千円)

	当第1四半期連結会計期間末 (平成22年6月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年3月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,841,280	1,841,280
資本剰余金	2,474,160	2,474,160
利益剰余金	1,549,576	1,559,545
自己株式	△445,513	△445,485
株主資本合計	5,419,503	5,429,499
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	16,296	15,431
評価・換算差額等合計	16,296	15,431
純資産合計	5,435,799	5,444,931
負債純資産合計	15,576,529	15,480,880

(2) 四半期連結損益計算書  
(第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年6月30日)
売上高	2,667,066	2,838,842
売上原価	1,446,580	1,612,172
売上総利益	1,220,485	1,226,670
販売費及び一般管理費	1,164,362	1,243,752
営業利益又は営業損失(△)	56,122	△17,082
営業外収益		
受取利息	700	532
受取配当金	806	890
受取賃貸料	3,524	24,210
為替差益	3,043	4,899
その他	1,235	10,069
営業外収益合計	9,310	40,602
営業外費用		
支払利息	27,844	32,594
賃貸費用	—	34,761
その他	1,020	2,124
営業外費用合計	28,864	69,480
経常利益又は経常損失(△)	36,567	△45,960
特別利益		
貸倒引当金戻入額	748	19,635
固定資産売却益	—	33,696
特別利益合計	748	53,332
特別損失		
投資有価証券評価損	289	—
前期損益修正損	14,116	—
特別損失合計	14,405	—
税金等調整前四半期純利益	22,911	7,371
法人税、住民税及び事業税	11,528	6,888
法人税等調整額	△5,860	△28,060
法人税等合計	5,668	△21,171
少数株主損益調整前四半期純利益	—	28,543
四半期純利益	17,242	28,543

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成21年4月1日 至 平成21年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年6月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	22,911	7,371
減価償却費	289,451	224,177
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△310	△29,064
退職給付引当金の増減額 (△は減少)	△2,120	1,852
賞与引当金の増減額 (△は減少)	60,830	63,700
役員退職慰労引当金の増減額 (△は減少)	1,350	△8,777
受取利息及び受取配当金	△1,506	△1,423
支払利息	27,844	32,594
有形固定資産売却損益 (△は益)	—	△33,696
前期損益修正損益 (△は益)	14,116	—
売上債権の増減額 (△は増加)	△135,969	137,870
たな卸資産の増減額 (△は増加)	105,477	136,453
仕入債務の増減額 (△は減少)	△72,018	98,070
その他	△272,103	△53,344
小計	37,952	575,784
利息及び配当金の受取額	1,506	1,423
利息の支払額	△27,618	△32,637
法人税等の支払額	△32,456	△26,072
法人税等の還付額	—	1,054
製品回収関連費用の支払	△58,086	—
営業活動によるキャッシュ・フロー	△78,702	519,553
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	△19,005	△10,641
有形固定資産の売却による収入	—	35,430
投資有価証券の取得による支出	△1,150	△149
貸付金の回収による収入	2,100	13,790
その他	△1,951	△16,074
投資活動によるキャッシュ・フロー	△20,006	22,353
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	199,000	19,296
長期借入れによる収入	500,000	200,000
長期借入金の返済による支出	△188,500	△197,202
自己株式の取得による支出	△4	△28
配当金の支払額	△17,020	△33,326
リース債務の返済による支出	△29,527	△31,387
財務活動によるキャッシュ・フロー	463,947	△42,647
現金及び現金同等物に係る換算差額	△50	—
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	365,187	499,259
現金及び現金同等物の期首残高	353,929	351,069
現金及び現金同等物の四半期末残高	719,117	850,328

(4) 継続企業の前提に関する注記  
該当事項はありません。

(5) セグメント情報

〔事業の種類別セグメント情報〕

前第1四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年6月30日)	コンタクト レンズ・ケ ア用品事業 (千円)	眼鏡事業 (千円)	その他事業 (千円)	計(千円)	消去又 は全社 (千円)	連結 (千円)
売上高						
(1) 外部顧客に対する売上高	2,097,393	380,610	189,061	2,667,066	—	2,667,066
(2) セグメント間の内部売上 高又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	2,097,393	380,610	189,061	2,667,066	—	2,667,066
営業利益又は営業損失(△)	143,999	8,232	△15,018	137,213	△81,090	56,122

(注) 事業区分の方法及び各区分に属する主要な品目の名称

事業は、製品、商品の系列及び市場の類似性を考慮して区分しております。また、これらの事業区分に属する主要な品目は次のとおりであります。

事業区分	主要製商品名
コンタクトレンズ・ケア 用品事業	コンタクトレンズ(ハード系、ソフト系、ディスポーザブル(使い捨て)レンズ)、 ケア用品(洗浄液、保存液、酵素洗浄液、コンセプトクイック、ソフトメイト、シードゥ ソフトケア、保存ケース他)、及びその関連事業
眼鏡事業	眼鏡レンズ、眼鏡フレーム(ビビッドムーン、プラスミックス、アイシード他)、 眼鏡備品、その他
その他事業	眼内レンズ、その他

〔所在地別セグメント情報〕

前第1四半期連結累計期間において、本邦以外の国又は地域に所在する連結子会社及び重要な在外支店がないため、該当事項はありません。

〔海外売上高〕

前第1四半期連結累計期間において、海外売上高は、連結売上高の10%未満のため、記載を省略しております。

〔セグメント情報〕

1. 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社の事業構成のうち個別の財務情報の集積が可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社は、営業本部内に営業企画部と各製品別の営業部を設置し、販売戦略やプロモーション戦略等を立案し、営業活動を展開しており、その重要性や関連性から「コンタクトレンズ・ケア用品」と「眼鏡」の2つのセグメントを報告セグメントとしております。

「コンタクトレンズ・ケア用品」は、コンタクトレンズやケア用品、及びその関連商品等を販売しております。「眼鏡」は、眼鏡フレームや眼鏡レンズ、眼鏡備品等を販売しております。

2. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			その他(注)	合計
	コンタクトレンズ・ケア用品	眼鏡	計		
売上高					
外部顧客への売上高	2,327,432	340,160	2,667,592	171,249	2,838,842
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	2,327,432	340,160	2,667,592	171,249	2,838,842
セグメント利益又は損失(△)	77,890	12,128	90,018	△30,393	59,625

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれないセグメントであり、眼内レンズや携帯電話事業等を含んでおります。

3. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位：千円)

利益	金額
報告セグメント計	90,018
「その他」の区分の利益	△30,393
セグメント間取引消去	—
のれんの償却額	—
全社費用(注)	△76,707
棚卸資産の調整額	—
四半期連結損益計算書の営業損失	△17,082

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない提出会社の総務部や経理・情報システム部等の管理部門に係る費用であります。

4. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報  
該当事項はありません。

(追加情報)

当第1四半期連結会計期間より、「セグメント情報等の開示に関する会計基準」(企業会計基準第17号 平成21年3月27日)及び「セグメント情報等の開示に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第20号 平成20年3月21日)を適用しております。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記  
該当事項はありません。